



# 何でも神様の御用向き 結構と勇んで勤めよう

8月大教会教会長会議  
立教187年8月22日  
大教会長 片山幹太

# 本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268  
**天理教本島大教会**  
電話 0877-27-3321 (代)  
本島通信編集室 R.240825-0829-18  
奈良県天理市指柳町270-1  
本島話所 〒632-0093  
電話 0743-63-1571 (時)  
<https://www.honjima.com>  
Email: webmaster@honjima.com  
大教会 朝夕おつとめ時間  
【9月1日～9月15日】  
朝づとめ 午前6時15分  
夕づとめ 午後6時45分  
【9月16日～9月30日】  
朝づとめ 午前6時30分  
夕づとめ 午後6時45分

8月は奉告祭があった関係で、ハワイへ巡教してきました。

様々な方とお話しする機会があり、その中で80代になっても現役の正社員として元気に働いておられる男性の方がいました。昔から社長さんになお愛がってもらい、信頼されて、今なお働いて欲しいと言われて勤めておられるそうです。

さらに話をうかがうと、会社で何十年も続けていることがあるそうです。それは毎朝、他の社員より早く出社し掃除をする。トイレ掃除も何十年と続けているそうです。

私は「徳積みになりますね」とお話しすると、その方は「トイレ掃除は自分のためにやっています。使う人のために、少しでもきれいにと思ってやっています」とのことでした。

この話を聞いて、私は教祖伝逸話篇「四四」天に届く理を思い出しました。

教祖が奈良監獄署へ御苦勞下され、一緒に入牢拘禁された鴻田忠三郎先とき、鴻田先生は教祖に「何をさせて頂いても、神様の御用向きを勤めさせて頂くとすれば、実に結構でございます」と申し上げると、教祖の仰せ下さるには、

「そうそう、どんな辛い事や嫌な事でも、結構と思うてすれば、天に届く理、神様受け取り下さる理は、結構に変えて下さる。なれども、えらい仕事、しんどい仕事を何んぼしても、ああ辛いなあ、ああ嫌やなあ、と、不足々々では、天に届く理は不足になるのやで。」

と、お諭し下されたという逸話です。日々の歩みの中で、お見せいただく出来事にいろいろ心配りをしていられる中、「ちょっとこうさせてもらおうかな」「ああさせてもらおうかな」と理作りを思い浮かべることが

## 9月は「全教会布教推進月間」 にをいがけ名簿・おさづけ取次ぎ報告 全教会提出 全教会を布教実動拠点に(布教部)

あると思います。

人たすけの上で心に浮かぶ理作りは、親神様から「やってみたらどうや」という御用向きかもしれません。人たすけのためになることであれば、神様の御用向きと受け止め、積極的に勤めさせていただきます。これが成人の歩みにつながるのではないかと思います。

先ほどの方のご息は、教会になりたいと思つて下さっているそうです。神様の御用向きが子供達に写り、伝わっていることも実感しました。私たちも、何事も神様の御用向きと結構に受け止め、勇んで掛からせて頂く、そういうようばくにお互い成人させて頂きましょう。

(文責・本島通信編集室)



## 「教祖は有難い」

おやさま ありがとう

## 年祭活動を仕切って歩もう

大教会准役員 高島栄造

たかしまえいぞう

只今は本島大教会8月の月次祭を、大教会長様を芯に全員で一手一つに勇んで勤められましたこと、誠にめでとございます。

御命を頂きましたので、8月の神殿講話を勤めさせて頂きます。よろしくお願ひいたします。

「教祖はなあ、有難い」  
今から30年ぐらい前になります



が、私が第二専修科で学んでいたとき、ある一人の先輩が朝礼台で、しみじみと、噛みしめるように言われた言葉です。今でもはつきり思い出すことがあります。

また先日、当時お世話になっていた寮長がお直しになられたとの報を受け、いろいろ学生時代のことを思い出しながら、当時はあまり考えていなかったことを改めて考える機会となりました。

教祖は「月日のやしろ」となられてから、何も知らない人々に、親神様のこと、その思召し、元初まりの話などたくさんのお教え下さいました。

そして口で説かれたばかりでなく、人々に分かりやすいように、筆に記されたり、自ら身をもってお示し下

されたり、様々な手段でみ教えをお伝え下さいました。

例えば自らを「をや」と称されたのは、親神様は人間の創造主であるからですが、人々が「親」という言葉に対して抱く感覚や、人間の理解を考へて、私たちにお説きくだされたのだと思うのです。

おふでさきに

このよふを初た神の事ならば  
せかい一れつみなわがこなり

(第四号62)

月日にハせかいちう、ハみなわが子  
たすけたいとの心ばかりで

(第八号4)

とあります。

親神様は人間を「みなわが子」と、親と子の関係にあることを教えられ、人間なら誰しも理解できるであろう親心を通してお掛け下さる「世界一れつの人間をたすけてやりたい」との思召しが、先輩の「教祖は有難い」という言葉になったのではないかと思います。

教祖は、この道をお教え下さるとき、大きな親心のもと同じことをくり返しなから、一人ひとりが分かるように、いろいろな方法を用いてていねいにお説き下さいました。

例えば、お百姓さんにはお百姓さんが分かるように、大工さんには大工さんが分かるように、一人ひとりの特性をよく見て、その人が一番分かりやすいであろう言葉、方法を選んでお説きくだされています。

お百姓さんに大工さんの話をしても分からないと思いますし、その逆もしかりです。そうした相手の身になって、相手の目線や立場に合わせ親神様の思召しを伝えていく教祖のお姿は、大教会長様がお話しくださる目配り、気配り、心配りの行為なのだろうと思います。

私たちも日頃から、お道を通る上で心がけたいひながたの道の一つだと思ひます。

さて只今は教祖140年祭に向かって、全教が心を一つに歩ませて頂いている時であります。各ようほく、各教会ともいろいろと目標を決めたり、心を定めたりして勤めていらつしやることと思ひます

本島大教会の成人目標に「日々のご守護に感謝しよう」とあります。

おふでさきに

たんく／＼となに事にてもこのよふわ  
神のからだやしんしてみよ

(第三号40・135)

にんけんハみなく、神のかしものや  
なんとももふてつこっているやら

(第三号41)

とあります。

おふでさき註釈によると「世の中  
のものは、総て親神様のおつくり下  
されたもので、全宇宙は親神様のお  
身体である。従って、人間も自分の  
力で出来たものではない。親神様の  
おつくり下されたものを親神様から  
貸して頂いて、この天地抱き合わせ  
の親神様の懐である世界に、親神様  
の御守護によつて生きているのであ  
る」とあります。

さらに、

めへくのみのうちよりのかりものを  
しらずにいてハなにもわからん

(第三号137)

とあるように、人間は身体を親神様  
からお借りしていることをまず知る  
ところから出発しない限り、人間創  
造の理も、親神様の懐住まいの結構  
さも、実感できないことをお諭し下  
されています。

私達は病気や、事情で困っている  
とき、親神様にお願ひし、その問題  
が解決したときは、神様にお礼を申  
し上げ、感謝するでしょう。こうい

う目に見えた御守護は素直に感じや  
すく、分かりやすいものです。

しかし、そうではないとき、いつ  
も通り物事が進んでいるとき、また  
順調なときは「神恩」、つまり常に頂  
戴している御守護、ご恩を忘れがち  
になりやすいものです。

ですから「かしもの・かりもの」の  
教理はお道の教えの基本であり、教  
えの台でもありませんので、何度も心  
に治めさせて頂き、身上や事情のと  
きだけでなく、何でもない日常でも、  
思い通り身体を使わせて頂ける有り  
難さ、すべての御守護に常に感謝の  
気持ちを持つるように、日頃から御  
守護を御守護だと気づく努力が大切  
だと思えます。

河原町大教会長・深谷善太郎先生  
の著書「だけど有難い」の中で、初代  
の深谷源次郎先生の逸話を取り上げ  
られて、「思い直す」ことが大切であ  
ることを記されています。

深谷源次郎先生が鍛冶屋をされて  
いたとき、転んで額にコブができる  
ほど強く頭を打ったことがあります  
した。その時に源次郎先生は「痛い、  
痛い、有難い」と言われたそうです。  
周りの人が「何が有難いのか」と尋  
ねると、「痛いと感じさせてもらえる

のが有難い」と答えられたそうです。

人間ですから信仰しようがしてい  
まいが、痛いものは痛いし、辛いと  
きは辛い。悲しいときは悲しい。と  
ころがその後「だけど有難い」と思  
い直すことの考え方が、大事である  
ということでした。

まずは「有難い」と考えてみる。そ  
して何が有難いのか、後から考えれ  
ば良いのではないかとということです。  
何が有難いか、親神様・教祖の思召  
しを求める思案をさせて頂く先には、  
必ず「人間をたすけてやりたい」とい  
う大きな「親心」に行き着き、本当に  
有難いと真から思えるようになって  
いくのではないかと、ということでした。

日々の暮らしの中では、大きなこと  
から小さなことまで、いろいろなこと  
が起こつてまいります。自分にとつ  
て都合の良いことに対してはそれで  
もありませんが、そうではない時に  
は、不安や不満、不足など、いろいろ  
な感情が出てくると思えます。

その起こつてくることにはすべて  
「子供をたすけてやりたい」という親  
神様の思召しがあつてのことだと思  
い直すことができれば、自ずと喜べ  
ることも増えていき、昨日より今日、  
今日よりも明日へと成人の階段を一

歩ずつ昇ることができる。教祖にも  
お喜び頂けるのではないかと思いま  
す。

このたびの教祖年祭活動三年千日  
も半分余りが過ぎました。

年頭の真柱様のごあいさつで「三  
年千日は、教祖140年祭を迎えさせて  
頂くための準備期間ではなく、三年  
千日そのものが本番である」と仰せ  
られています。

三年千日とは、教祖5年祭を前に  
戴いた刻限のおさしづ、でお教え下  
さつた言葉です。

「五十年の間の道を、まあ五十年  
三十年も通れと言えはいこまい。  
二十年も十年も通れと言うのやな  
い。まあ十年の中の三つや。三日  
の間の道を通れば良いのや。僅か  
千日の道を通れと言うのや。千日  
の道が難しいのや。ひながたの道  
より道が無いで。(中略)三年辛抱  
すれば、落ちようと思つても落ち  
られん。(中略)たつた三日の間や。  
三年の道通れば、不自由しように  
も、難儀しようにもしられやせん。  
たつた三日の間や。」

(おさしづM22・11・7)

教祖が50年もの間、子供可愛いとい

う親心一条でお通り下さり、手本としてお残し下されたひながたの道を、せめて3年教祖のひながた通りに通ってみよ。そうすればその先、落ちようにも落ちられない、不自由しようにも難儀しようにもできない御守護をお与え頂けるということですよ。

以降、10年ごとに仕切って勤められてきた教祖の年祭活動です。私はこの仕切ること、繰り返すことが重要なことだと思います。

おさしづに、

どうでも一つ、仕切り根性、仕切り力、仕切り智恵、仕切りの道

(おさしづM40・5・8)

とあります。

もちろん教祖ひながたの道は、三年千日に限らず私たちは日々求めさせて頂かなければならない道であります。やはりそこにはどうしても心の緩みと申しますか、ずっと気を張って通らせて頂くことは難しいので、三年と仕切った期間はとにかく「成人させてやりたい」という親の心を求めて一生懸命に通らせて頂くことが大切だと思います。

おさしづに

「難しい事をせいとも、紋型無き事をせいと言わん」

とあります。(おさしづM22・11・7)

その難しくないひながたを難しくしているのは、私たちの心でありまた簡単にするのも私たちの心一つにあります。

おふでさきに、

せかいぢうむねのうちよりこのそふぢ 神がほふけやしかとみでいよ

(第三号52)

とあります。

親神様の思召しを思案し、日々その思いに沿って通らせて頂けば、親神様が箒となって心の埃を払って下さるという意味だと思いますが、こんなには難しいことではないと思うのです。人間が幸せになれるよう、御自ら箒となって働いて下さるという神様は、世の中を見渡しても他にあるでしょうか。

いちれつに神がそふちをするならば 心いさんてよふきつくめや

(第三号54)

とありますように、親神様が掃除をして下さったならば、心勇んで陽気づくめになるとお教え下さいませ。

教祖の年祭活動は、私たちの祖先の年祭とは全く異なり、教祖のひながたをたどることが目的にあります。

布教部報告(8月分)

数字は本年の提出回数です

Table with 2 main sections: 'にをいがけ名簿提出教会 (8月)' and 'おさづけ取次報告教会 (8月)'. Each section contains a list of churches and their counts for various categories.

自分ではひながたの道をたどらせて頂いているつもりでも、知らず知らずのうちに自分の都合の良いようにひながたを曲げていないか、通りやすいように付け替えていないか思案し、その上で、自分自身をひながたに合わせることを、再確認する時でもあると思います。

心遣いを振り返り、反省するところは反省して、今一度をやる思いを確認し、たすけ一条の上に努めさせて頂くときでもあると思います。教祖年祭活動のこの時旬にしっかりと真実の種を蒔かせて頂く。精一杯力を出し切って勤めさせて頂きましよう。

(文責・本島通信編集室)

# 八月月次祭 祭典役割

**献饗長** 井上 哲  
**伝 供** 向所隆文・大上道德・原口実・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・横山正次・高島榮造・白垣初生・岩橋秀一・香川勝巳・鎌田典夫・阿部盛夫・宮路和徳・村田輝夫・古井信・松

下尚一・川村吉夫・溝口晋太郎・吉野正晃・後藤正樹・片山好次・江草克二  
**雅楽奉仕者** 文岡育則・池田恒治・香川高範・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典（順不同）

祭主 指図方	大教会長 老木邦光		寺本教生 岩橋竜造		賛者 永島宗行 長尾海和	
	座りづとめ	をどり前半	座りづとめ	をどり前半	座りづとめ	をどり後半
地方	岩橋慶三 井上 哲 岡崎八十則	原口 実 伊東康成 高垣光治	横山正次 岩橋秀一 田中丸勝也	茶屋原良昭 白垣初生 宮路和徳 原口和子 高垣洋子 梅木澄代	てをどり	てをどり
てをどり	大教会長 片山 勲 牧野道昭 會長夫人 長尾澄子 池田さわみ	向所隆文 大上道德 奥村龍夫 岩橋元実 雲庵まち子 永山みすゞ	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子
ちやんぼん 拍子木 太鼓 すりがね 小鼓 三味線 胡弓	岩橋竜造 雲庵道延 窪田靖明 寺本教生 篠原丕王 老木邦光 片山やすゑ 片山 榮 片山孝代	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子	雲庵春彦 永山晴明 吉田晴雄 片山直明 長濱充憲 高島榮造 岡崎むつゑ 井上みつの 向所暉美子

## 八月月次祭祭文

立教百八十七年八月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます  
 親神様には一れつの子供の陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創め下され限りない御守護とだんだんのお仕込みにより漸く今日の成人をお見せ下さり日々結構にお連れ通り下さいますご慈愛の程は誠に有難く勿体ない極みでございます

これら将来の道を担う道の後継者の育成活動の上には温かい親心をもって無事お連れ通り下さいましたことを心から厚く御礼申し上げます  
 加えて来る九月は「全教会布教推進月間」のお打ち出しを頂いておりますので教会長ようばく信者一人ひとりが教祖の親心を求めひながたの実践を通して年祭活動の上に勇んで歩ませて頂きたいと存じます

私共は常に親心にもたれ成つて来る理を思案して日々を喜びと感謝の心で通らせて頂いておりますがその中にも今日の吉き日は当大教会の八月の月次祭を執り行う日柄を迎えましてので役目に与るおつとめ奉仕者一同心を澄ませ一手一つに只今から座りづとめてをどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます  
 御前には猛暑の中もいとわず帰り集いました教え子達が日頃賜る数々の御守護にお礼申し上げ併せて世界たすけのおつとめに心を一つに寄せ合う一同の真実をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

何卒届かぬところ至らぬ点は幾重にもお仕込み下さいます一人でも多くのようにばくが世界たすけの御用にお連れ通り頂けますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます  
 (原文のまま)

## 入社祭

(立教187年8月22日)

▼本米浜△田中未来 【計1名】

8月22日(火)  
【香川県丸亀市】

天 候 晴  
 最低気温 27.7℃  
 最高気温 34.9℃  
 平均気圧 1010.0 hPa  
 平均湿度 72%  
 平均風速 1.6 m/s  
 日照時間 11.9 時間  
 降水量 0.0 mm

尚この月十八日より二十日まで「本島学生会サマーキャンプ」を大教会を会場に実施させて頂き続いて二十日、二十一日と恒例の「少年会本島団第三十四回総会と夏のつどい」を開催させて頂きました

## 台檀教会 移転鎮座奉告祭



参拝者70名。快晴。

台檀教会(リン・ミツノ・ソニー会長、米国カリフォルニア州ダンビル市)では本年4月26日のお運びでハワイ州からカリフォルニア州への移転の理のお許しを戴いておりましたが、去る7月27日午後7時30分より鎮座祭、翌28日午前10時より奉告祭を、大教会長夫妻(随員・斉藤コーリン役員)を迎え執り行いました。



台檀教会は昭和9年3月5日、パラマ教会として設立

しましたが、その後第二次世界大戦が始まり、戦中、戦後の苦難を乗り越え、紆余曲折を経て、立教155年6月26日に台檀教会に改称して、設立より約90年間にわたりハワイの地で布教活動を行い信仰を紡いできました。しかしながら台檀教会の後継予定者であるジェンソン・カズオ・ソニー氏は現在生活の拠点がカリフォルニア州サンフランシスコにあり、また教会を支える信者の多くもサンフランシスコ在住であることから、サンフランシスコを新たな布教地として移転し道を切り拓いていく決意が定まり、教会役員、信者、さらに上級のホノルル教会長との話し合いを重ね、サンフランシスコ近郊のダンビル市に移転することに話がまとまり、理のお許しを願い出ることになりました。

## 本島団鼓笛隊 第112回夏季合宿

本島団鼓笛隊(佐藤道子部長)では、第112回夏季合宿を7月26日から31日までの5泊6日間、本島詰所で行いました。総勢99名が参加しました。(内訳・ドリーム隊11名、本隊43名、高校生8名、リーダー37名) 26日詰所集合、開講式を行い、本部神殿にて夕づとめを参拝しました。

移転地は約5千㎡(約1千500坪)の境内地に、木造アスファルトシングル葺地下1階付2階建の神殿教職舎1棟がおちばに正対して建てられており、カリフォルニアの陽光が降り注ぐ明るい参拝場になっています。

奉告祭には地元信者のみならず、台湾、ワシントン州、ニュージャージー州などからも大勢寄り集い、一手一つに陽気なおつとめが勤められました。

27日は、こどもおちばがえり行事に参加。朝のおつとめ、おたのしみ行事に参加し、カレー食を喫食しました。続いて30日の本番に向けて熱心に練習を行いました。

29日には前夜祭を詰所講堂で行い、帰参者を前に、マーチ3曲、ドリーム隊2曲、続いて全員による「レッツゴーブルー」「ありがとう夏のおちば」「パレード・ザ・ホンジマ」を演奏しました。

30日午前中は、白川グラウンドで気合いの入った最後の

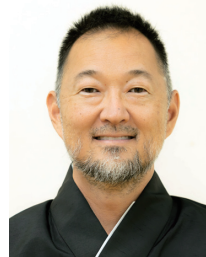


練習を行い、午後の鼓笛オンパレードに出演。本隊は「RYG」で金賞受賞、ドリーム隊は「さんぽ」「コーヒーブレイク」で奨励賞を受賞しました。

続いて今年から夕づとめ前に行われる鼓笛御供演奏では、おやさとかた真東棟前から東礼拝場前まで、その日の出演団体の最後を飾って「RYG」を単独演奏行進。そして東礼拝場前にて大勢の鼓笛隊とともに「ありがとう夏のおちば」を御供演奏しました。

詰所に戻り、第56回総会ではアメリカ巡教中の大教会長様より届けられたメッセージを大上道徳団長が代読。「厳しい規律や練習に頑張ってきた成果が、人の心を動かします。厳しさの先に感動があり、感動の先に喜びがあります。の先に心の成長があります。本島鼓笛隊の大事な目標の一つは、心の成長です。これからも一人の人間として、隊員もリーダーもともに心の成長を目指しましょう」と伝えられました。

## ニュービギニング教会 鎮座奉告祭



ニュービギニング教会(旧カイクキ教会、鈴木テイジ・ダニエル会長、米国ハワイ州ホノルル市)は本年7月26日のお運びで任命・移転・改称・御目標様再奉祀願の理のお許しを戴いておりましたが、去る8月16日午後7時30分より鎮座祭、翌17日午前9時30分より奉告祭を、大教会長夫妻(随伴・斉藤コーリン役員)を



迎え執り行われました。参拝者107名。快晴。

カイクキ教会は昭和8年11月3日ホノルル市において設立し、戦争の苦難を経て信仰を繋いできましたが、井上清マイク3代会長が立教174年3月5日に出直して後、後任者が定まらず、さらにハワイ州の法律では事実上教会長不在の状態が続くと教会の土地建物がハワイ州政府に没収されることから、やむを得ず親神様・教祖の御目標様ならびに祖霊様を上級ホノルル教会へ遷座し、教会の土地建物を売却処分した上で、復興を目指してきました。そしてこのたび大教会直轄ハレケアクア布教所に所属する鈴木テイジ・ダニエル氏がカイクキ教会の後継を申し出てきました。

母親の故郷であるハワイへ一家で移り住み、その後長男の鈴木ダレル氏がホノルル市で大教会直轄ハレケアクア布教所を開設して布教所長となり、次男のダニエル氏共々信仰をつないできました。そんな中、ダニエル氏は自身に起こる様々な事情を通して、いんねんを自覚し、参拝に通っていたホノルル教会で部内のカイクキ教会が長い間無担任教会であることから、是非カイクキ教会を復興したいと思うようになり、妻タシアナ氏と夫婦心を揃えてホノルル教会長と話し合いを重ねたところ、これまで通りホノルル教会の部内教会として復興することに話がまとまり、任命を願い出るようになりました。

その後パーティーでは、和太鼓、高校生やリーダーによる出し物等で楽しいひとときを過ごし、来年の再会を約束してそれぞれの帰路につきました。

佐藤道子部長談「合宿にあたり、おやつ等お供えをくださいました教会や個人の皆様、詰所でのお世話取りをしてくださりましたひのきしん者や在籍の皆様、送迎等携わって頂きましたたくさんの方々のおかげで無事終了する事が出来ました。心より感謝を申し上げます。」

また教会名称を「ニュービギニング教会」と改称することも願い出しました。新名称は、文字通り新しく一より始めるという意味で、新名称の元で教会一同が一手一つに心を合わせてハワイの地に根づいて、教祖の御教えを弘めるためらとめさせて頂く決意が込めら



れています。

奉告祭には小原仁郎ハワイ伝道庁長夫妻を始め、大勢のハワイ管内の教友、新たに受信された友人などが集い、陽気に勇んでおつとめが勤められました。

## 少年会本島団 第34回総会と夏のつどい

少年会本島団(大上道徳団長)では、8月20日から21日の1泊2日間、大教会において「第34回総会と夏のつどい」を開催。少年会員29名、学生カウンセラー9名の計38名が参加しました。テーマは「ご恩報じの心」。

20日は午後7時45分より神殿にて開講式を行い、その後1時間ほど座りづとめとよろづよ八首のおてなおしを行いました。

21日はまず「お願いづとめカード」を記入。続いて午前8時30分よりおつとめ練習。一下り目から三下り目までのおてなおしを行った後、神殿廻廊拭きひのきしんを行いました。

続いて午前10時30分より大教会長様の芯で座りづとめを勤め、続いてよろづよ八首から三下り目まで、てをどりを総立ちで勤めさせて頂きました。



休憩をはさんで第34回総会を開催。少年会長様の御告辞を頂いて、記念撮影を行いました。

午後からは屋釜海水浴場で海水浴。また今年も岡崎八十則役員が所有する小型船舶「八十九」に乗船し、塩飽諸島の遊覧を楽しみました。

夕づとめ後は神殿北側広場にて、月次祭帰参者の皆さまとともに会食を楽しみ、少年会員は射的やスパーボールすくいで夏の夕べのひとつきを過ごして閉会しました。

## 本島学生会サマーキャンプ

本島学生会(片山直道委員長)では8月18日から20日の日程で、大教会においてサマーキャンプを実施。

学生20名と学生担当委員5名の計25名が参加しました。

18日夕刻、大教会に集合し神殿で開講式。続いて講堂でのオリエンテーションを通じて自己紹介を行い、お互いの理解を深めました。

19日午前はひのきしん。

女子は風呂掃除、男子は餅つきとトラックの荷物降ろしを行いました。続いて屋釜海水浴場に移動して海浜行事。テントを設営し昼食は流しそうめん。そして海水浴を楽しみました。

そのまま海水浴場でバーベキューを行う予定でしたが、途中から天気が崩れてきたので大教会へ戻り、夕づとめ後講堂南側の軒下でバーベキューを行いました。そのタイミングで雨が上



餅つきひのきしんの様子

がったので、神殿南側広場で花火を楽しみました。

最終日の20日は午前8時より、男女分かれて青年会と婦人会行事に参加。続いて午前9時40分発のフェリーで丸亀に移動し、讃岐うどんツアーとして人気店2店舗のうどん店を巡りました。その後、丸亀港フェリー待合所で解散。少年会学生カウンセラーのため本島へ戻る者と、天理へ帰る者とに分かれ、またの再会を誓いました。

## こかん様に続く会

女子青年層を対象とした「こかん様に続く会」が学生会サマーキャンプ中の20日午前8時より大教会において実施。11名が参加しました。

片山かおり支部長のメッセージを代読し、吉田要子委員よりこかん様の道すがらを説明。その後茶話会をしました。



こかん様に続く会

## あらきとうりょう入門塾





### 宮森先生おてなoshi

大教会世話人・宮森与一郎先生による「おてなoshi」が8月25日午後3時より約1時間、詰所4階講堂で行われ、これまでで最多の68名が受講しました。

まず宮森先生より「おつとめを勤める上で大事な心構え」として、「素直な心」「一手一つの心」「勇んだ心」が大切とし、「これはおつとめを勤めるときだけ出来るものではなく、日々の心の遣い方から心がけること」とお話しを頂きました。

続いて基本的な手振りをおさらいした後、九下り目と十下り目の手振りを確認しました。



### MOMOの会「女鳴物勉強会」

若い婦人会員や子育て中の母親らによる「MOMOの会」が鼓笛合宿中の7月29日と30日、本島詰所北棟1階大広間にて「女鳴物勉強会」を実施。両日合わせて20名が参加しました。



「教会の会長さんや奥さんから、女鳴物を勤めて下さいと言われたら、『はい』と言って勤めて頂ける婦人」を目指して、趣向を凝らした稽古方法を取り入れ、熱心に取り組まれました。

とりわけスマートフォンでの調弦アプリを使って正確な音程に合わせる稽古は好評で、

### 能登半島支援有志隊第2次

「能登半島復興支援有志隊」第二次隊が、8月23日から25日の日程で出動し、2名が参加。24日の活動日は午前中、信者宅の落ちた土壁に石膏ボードを張る作業を行い、午後からは珠洲ひのきしんセンター

珠洲ひのきしんセンターには様々な支援物資が届けられます。教会の奥様から「いろいろな方々から支援物資や食材を頂くのですが、中には調理の仕方が分からなくて痛めてしまうことがあります、そのことが心苦しい」とのお話を伺ったことから、参加者の一人が食品衛生責任者の資格を有していたことから、支援食材を使って夕食の準備を手伝いました。



女鳴物勉強会のようす

参加者からは「調弦から教えて頂いたので、自宅に帰ってからも自分で準備し継続してお稽古できます」との感想がありました。



震災より8ヶ月以上が経った被災地は、現在も多くの家屋が倒壊したままや、ひび割れた道路、隆起した土管などが復旧にはほど遠い状況が続いています。今後も継続的な支援活動が必要で、有志隊では年内に第3次隊出動を計画中です。

### 能登半島復興支援有志隊

「第二次隊」出動者名簿

(立教187年8月23日～25日)

▼本京△牧野善明

▼大松峰△松下尚一【計2名】

### あらしとつりよう入門塾

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、20日午前8時より男子学生を対象に「あらしとつりよう入門塾」を実施。学生9名、委員1名が参加しました。

伊東賢太郎委員長より「あらしとつりようとは」の話を行い、これを機に青年会ひのきしん隊や雅楽講習会の参加者を募り、手応えがありました。



### ろくちん会

(立教187年8月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会 ▼本高△菅岡新 ▼ポトランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次

ご芳志に厚くお礼申し上げます

### 「学生生徒修養会・高校の部」

受講者名簿

(立教187年8月9日～13日)

#### ■受講生

【計7名】

(3年生)▼吉松峰△宮林明音  
 (2年生)▼大松峰△中理  
 (1年生)▼本樺△大上はる香  
 ▼本主嘉△本田友一△中山龍聖  
 ▼大松峰△小田木愛叶△牟田琴木

#### ■スタッフ

【計5名】

▼本千代△吉田貴慶 ▼本太△佐藤祥子 ▼本備前△伊東賢太郎 ▼与島△岡崎希恵 ▼栄東峰△川村幸代



### 赤峰少年会おとまり会

赤峰分教会(向所隆文会長・宮崎県都城市)では、8月13日から2泊3日、同教会を会場に教会おとまり会(赤峰キャンプ)を実施。少年会員8名、育成会員6名の14名が参加しました。

教話、おつとめ鳴物稽古、乗用草刈機を使って草刈りひのきしん、宿題勉強会、観音池公園プール、夜のお楽しみ行事では講堂の舞台大壁面とプロジェクトを使ったビデオゲームで競いました。

また今年初めての試みとして、食事はメニューから少年



### 本陽泉分教会3代会長1年祭



本陽泉分教会(四辻朝恵会長、大分県別府市)では、四辻信子3代会長1年祭を、8月11日午前10時より池田さわみ安藝本中分教会会長祭主のもと執り行われました。参拝者28名

会員の話し合いで考え、買い物と調理。2日目の夕食はラーメンを作りプリンを添えました。

和太鼓にも挑戦し、最終日は月次祭終了後、神殿にて元気よくY O A S O B I「アイドル」をお供演奏しました。

## あなたに行ってほしい 修養科

### 今年10月、いよいよ1000期生

1000期生募集：9月21日大教会集合、23日天理へ移動、28日修養科志願者面接、10月1日入学式、12月27日修了式



修養科 HP

卒業や結婚など人生の節目に教養を学びたい。



夫婦、親子など人間関係を解決したい。



健康になりたい、病気をなおしたい。



依存症や生活習慣を改善したい。



人生が変わる 運命が変わる

### 事情はいづ

立教187年8月、本島関係のお運びはありませんでした。

### おさづけの理拝戴

(立教187年7月分)

本島

Evelyn Cristina Imayo Suzuki

ホノルル

Lauren Sakamoto

ホノルル Leland Uyeda

カカコ Micah Sakamoto

【計4名】

### 修養科第99期修了

(立教187年8月27日修了)

文峰 上ノ瀬瑠衣

【計1名】

### をびや許し

(立教187年7月分)

攝滋 加藤すみれ

大駿峰 森 千乃

【計2名】

### 証拠守り下附

(立教187年7月分)

本年代1

【計1名】

### 少年会新隊長

(立教187年7月26日付)

本恵山隊 岸川咲恵

崇徳隊 高垣みなみ

仙峰隊 鈴木蒼空

【計3隊】

### 大教会長動向

▼9月(予定)▲

3日、香川教区役職者会議  
15日、本島直属信者 おちば帰り団参

22日、大教会月次祭執行

23日、大教会秋季霊祭執行

24日、修養科門出まなび

25日、かなめ会委員会

26日、本部月次祭参拝

27日、かなめ会

28日、30日、全教一斉

30日、本部神殿奉仕当番

にをいがけデー

以上

■片山好次君(大教会長夫妻の次男)は8月25日より、本部青年見習いづとめが始まりました。



■片山香葉子さん(大教会長夫妻の長女)は8月26日をもって3年間の本部女子青年づとめを終えられました。

### 統計 (7月1日~31日)

教会名	初席	中席	委子壇	修養科	教人講習	検定講習
本島	1	1	1			
本太		1				
本田		1				
本幸		1				
本恵		2				
本千	1					
本太			1			
本中	1	1				
本陽	1	1				
本倉		2				
大駿		1				
大別		2				
吉松		1				
肥後		1				
仙八		1				
仙峰		1				
ホノルル	2	2	2			
カカコ	1	1	1			
マリーナ	2	2				
合計	12	21	4	1	0	0

### すき間の おはなし

50年以上生きてきて、初めて人の臨終に立ち会う経験をしました。

私の教会に約10年住み込んでいた79歳男性のSさん、老衰でした。

夜中の2時過ぎ病院から電話があり、私はぐっすり寝ていたところ、よくぞ携帯電話のバイブ音に気がついたと思います。

病室に案内され、「Sさん」と声をかけたらビクッと反応してくれました。耳は聞こえていることが分かりました。

「おつかれさまでした。そろそろ教会に帰ろう!」と言ったら、目を開けたまま、「ありがとう」と口が動いたようでした。

夜勤の看護師が慌ただしく動いている横で、おさづけを取り次がせて頂きました。プラスチック手袋を通してSさんの温もりが伝わってきました。

しばらくすると心臓の数値が赤色で「0」と表示されました。それでもSさんは口をパクパクさせて、生きようとされました。

私と目を合わせていました。が、ほどなくして穏やかな表情のまま、瞳の輝きがフツと失われました。気づいたら口パクも止まっていました。「あ、往ってしまった」と分かりました。

私もいつか必ず迎えるその時は、Sさんのように出直してきたいと思いました。ありがとうございました。(むかいじよ)



### 全教会布教推進月間

【布教部】

本年と来年の9月は「全教会布教推進月間」です。

全教会をにをいがけの拠点とし、一人でも多くのようぼくの実動を目指しましょう。

「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」を9月21日と10月21日、全教会もれなくご提出願います。

「実動報告書」(所定用紙、本島ドットコムからもダウンロード可)は10月21日まで大教会布教部へご提出ください。

### 教会長登殿参列

【登殿参列係】

- 9月26日月次祭登殿参列者(教会名)  
琴浦・本岡・本草・攝泉・本小倉・安藝本中・本陽泉・本廣島・シートック・本萩・神峰・大松峰・別峰・實峰・仙峰・本室・ミッドウエスト(順不同)
- ※車椅子が必要な教会や登殿月の変更希望等は早めにお知らせ下さい。

- 登殿参列集合について  
詰所で教服を着用し、午前7時30分写真の間集合してください。諸説明後、バスにて出発します。

※教服の貸出はありませんので、各自でご用意ください

- 該当月に登殿参列が出来ない場合は、一覧を本島詰所に掲示しておりますので、各自で交代の話し合いを行い、決まった後は必ず登殿参列係へお知らせ下さい。

- 登殿参列係：平井真治郎役員

### 鼓笛隊練習着修繕ひのきしん

【婦人会本島支部】

- 日時：9月22日(日)夕づとめ後

### ようぼく研修会

【布教部】

- 日時：10月25日(金) 18:30~20:00
- 会場：本島詰所 4階講堂
- 参加御供：500円(但し修養科生、講習生、学生は無料)
- 講師：茶木谷吉信先生  
(大江部属・正代分教会長)

### 秋季雅楽講習会

【青年会本島分会】

- 日時：9月7日(土)午前9時~  
9月8日(日)午後3時
- 場所：本島詰所
- 内容：初心者には平調、経験者は太食調

### みちのだいおはなし会

【婦人会本部】

- 日時：9月26日(木)午後1時~2時
- 会場：東講堂
- 講師：中村陽子先生(布教の家千葉祭長)
- ※託児はありません。

### 能登半島ひのきしん

【青年会本島分会】

- 能登半島地震被災地ひのきしん(青年会)
- 日程：10月12日(土)夜出発  
13日(日)終日活動 14日(月)朝現地出発
- 問合せ先：伊東賢太郎

### 9月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- 期間：9月21日~23日
- 派遣教会：赤峰

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- 期間：9月25日~26日
- 派遣教会：渋谷①、本宣道①

### 大教会9月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：9月22日大教会9月月次祭に参拝できないため、ライブ中継視聴を希望する方

- 申込方法：  
メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。



- 申込締切：9月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。
- 本年10月から12月まで3ヶ月間、月次祭ライブ中継は休止します。

<https://www.honjima.com/>

### 秋季霊祭のご案内

【本島大教会】

9月23日、大教会で執り行われる秋季霊祭には、左記の霊様が年祭に当たっておられますので、ご連絡いたします。

- 一年祭  
永山松夫主(本島)  
岡崎俊郎主(与島)  
高島百年子刀自(撫川)  
肥後章主(文峰)
- 十年祭  
山下弘子刀自(本水島)
- 二十年祭  
大久保貞雄主(本伯)
- 三十年祭  
白垣珠美童女(本廣)  
老木好美主(阿波本徳)

- 四十年祭  
岡崎アサヨ刀自(与島)  
大谷静子刀自(仁徳)  
平井雅男主(樺太)
- 五十年祭  
岡崎ヨ子刀自(本返)  
長尾シゲ刀自(本島)  
大谷忠雄主(仁徳)

※教会名は連絡先であり、実際の所属とは異なる場合もあります。

【計十四霊】